



— 第3次 —
久万高原町
総合計画

— ∞ —
2026 ▶ 2035

森と人が編む、恵みの環（わ）

— ウッドスクエア久万高原 —

概要版



1 計画策定の背景と目的

やまあいを渡る風は、季節ごとに色を変えながら、このまちの時間を刻んできました。

木々のささやき、川のせせらぎ、土を耕す鋤の音。久万高原町の一日は、自然と人との営みがゆるやかに重なりながら始まります。かつて先人たちは、この土地に根を張り、森とともに生きる知恵を育んできました。今もその記憶は、森の奥に、里の暮らしの中に、静かに息づいています。

けれど、時代は変わり、人口減少や気候変動、デジタル化の波など、私たちを取り巻く課題は複雑に絡みあい、これまでの延長では答えを見つけにくい時代となりました。だからこそいま一度、足もとにある恵みを見つめ直し、もう一度「自分たちの生き方を編み直す」ことが求められています。

「久万高原町総合計画」は、このまちの未来を形づくるための最上位計画であり、「第3次久万高原町総合計画」（以下、「本計画」という。）は、この先10年間の道しるべとなるものです。

まちのすべての分野の施策を結びあわせ、森と人、人と人とのつながりを確かにしながら歩いていく。単に事業を並べるのではなく、「どう生きたいか」「どう在りたいか」という問いを、住民一人ひとりと共有しながら、まちづくりの方向をともに描いていく。それが、総合計画の根っこにある想いです。

本計画を通じて、久万高原町は、自らの足で立ち、森と人、人と人が支えあいながら、静かに、そして確かに、営みを次の世代へと受け継いでいきます。



2 計画の期間と構成

本計画の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間です。この10年間で、まちのこれまでの歩みを見つめ直し、次の世代へとつなぐための時間として位置づけています。

基本計画は、前期（令和8～12年度）と後期（令和13～17年度）に分かれており、社会情勢の変化やまちの実情に応じて、必要に応じた見直しを行います。変化する時代の中で、まちが確かな方向性を持ち、しなやかに成長していくための道のりとして、本計画を進めていきます。



また、土地利用における総合計画の「都市計画マスタープラン・立地適正化計画」、住民の安全・安心のために策定する「国土強靱化地域計画」など、本計画を最上位計画として、これらの計画及び個別計画と十分に整合と調和を図り、まちとして一体的な施策を推進します。

加えて、本計画を推進することで、SDGsの達成を図るため、SDGsの視点を各施策に盛り込むこととします。

3 まちの人口について

総人口

10年で約1,700人減少

総人口 **6,744人**



人が減り、まちの力が弱まりつつある。だからこそ、残る人の力をつないでいこう。

住民基本台帳（令和7年9月末時点）

高齢化

10年前から約3ポイント増

高齢化率 **50.4%**

後期高齢化率 **31.8%**

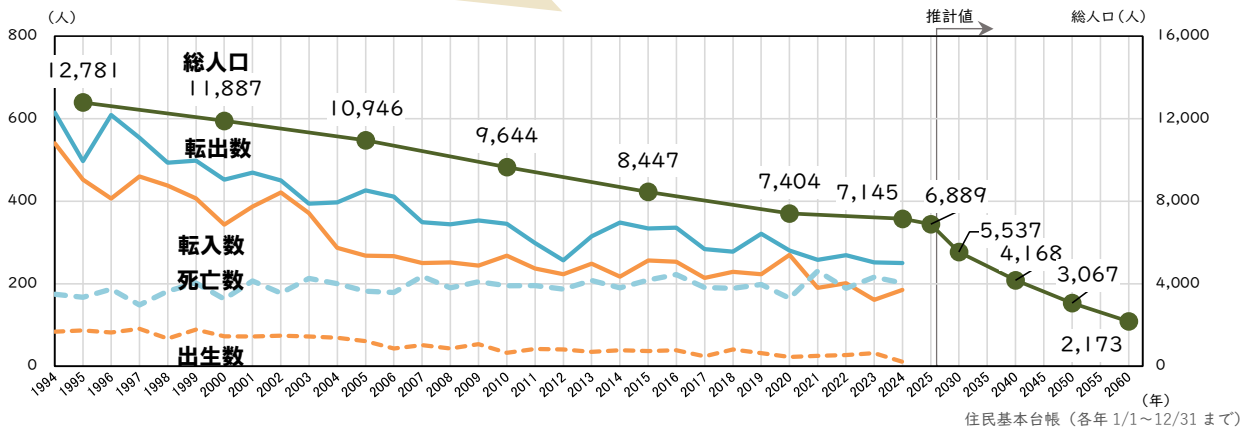


地域を支えているのは、高齢者を含む一人ひとりの力。各年代の「できること」を結集するまちへ。

住民基本台帳（令和7年1月1日時点）

人口動態

令和6（2024）年は191人の自然減、65人の社会減



- 久万高原町では、人口減少と高齢化が同時に進行しており、生まれてくる赤ちゃんの数も少なくなり、集落を守る人が減ってきました。このままでは、まちの元気がどんどん弱まってしまいます。
- けれど、町にはまだ、たくさんの知恵や技、思いやりがあります。外から人を呼ぶだけでなく、今ここにいる人の力をもう一度見つめ直すことが大切です。
- これからは、「人を増やす」よりも「人を生かす」まちへ。世代を越えて支えあい、子どもも大人も、お年寄りも、誰もが主役になれるまちをみんなでつくっていきましょう。

4 まちの産業について

産業分類別就業人口

第1次産業	960人	10年前と比べて 121人減
第2次産業	490人	10年前と比べて 127人減
第3次産業	2,070人	10年前と比べて 226人減



どの産業も人が減り、地域を支える働き手が足りない。だからこそ、仕事の魅力を見直し、若い世代を呼び戻そう。

国勢調査（令和2年）

中高生の町内での就労意向

町外での就職希望がほとんど

12.5%

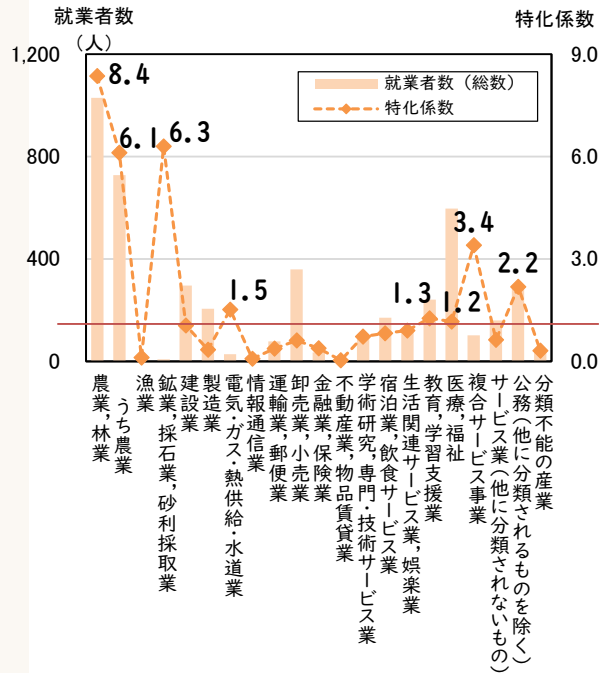


将来、町で働きたいと思う子どもはわずか1割。だからこそ、「働きたいと思える町」を一緒につくろう。

中生「将来働きたいと思ったとき、仕事は久万高原町の中で見つけた（町内または町外居住）」と回答した人の合計

久万高原町の産業の強み

圧倒的農業・林業



全国と比べた産業の「得意分野」を示す特化係数は、農林業において全国平均の8倍の規模。だからこそ、この強みを生かし、次の時代の産業へつなげたい。

国勢調査（令和2年）

- どの仕事の分野でも働き手が減っています。農林業は町の誇りですが、働く人の多くが高齢になりました。若い人の多くは「町外で働きたい」と思っています。
- けれど、町の中には仕事のタネがたくさんあります。例えば、水道の修理、雪かき、買い物の手伝い。こうした身近な困りごとを町の仕事に変えることで、お金も人も町の中をめぐるすることができます。
- 町の強みである農林業を新しい形に育て、観光やデジタルの力を借りながら、「働きたい」と思える町にしていくことが大切です。

5 まちに対する町民の声

どんな人の声？

アンケートへのご協力ありがとうございました

住民 **674人**

そのうち 10~20代：26人(3.9%) 30~40代：83人(12.4%)
50~60代：236人(35.0%) 70代以上：313人(46.4%)

中高生 **207人**

住みやすさ

「住みよい」と感じている

住民 **80.6%**

中高生 **50.2%**

住民「住みよい+まあまあ住みよい」
中高生「とても住みよい+どちらかといえば住みよい」と回答した人の合計

まちへの愛着

「自分のまち」としての愛着を感じている

住民 **83.1%**

中高生 **60.9%**

住民「大いに感じている+愛着をやや感じている」
中高生「とても愛着がある+まあ愛着を感じている」と回答した人の合計

中高生が思う／

久万高原町の自慢できるもの

自然や文化が多い

美しい自然環境

農林業などの自然を生かした産業

伝統文化や祭り

中高生アンケート

定住意向

住民は半数以上、中高生は1割満たない

住民 **65.4%**

中高生 **9.2%**

住民「現在お住いの地域に住み続けたい」
中高生「10年後どこに住んでいきたいか久万高原町内」と回答した人の合計

住民が思う／

住まい選びで重視すること

利便性や安全性を求めている

日常的な買い物の利便性

医療・福祉施設等の利便性

防災に対する安全性

中高生アンケート

住民が思う／

こういう特色のまちにしてほしい

医療・福祉、自然、農林業がキーワード

人にやさしい福祉・保健・医療の充実したまち

水や緑を大切にする自然環境を保全するまち

農林業を中心として発展するまち

住民アンケート



久万高原町
未来づくりワークショップ

地区別編

「何もない」なんて言わせない！各地区にある宝物を「コト・ヒト・モノ」に分けて再発見しました。

コト（行事）

さくらまつり、歌舞伎、獅子舞など、受け継がれてきた文化

ヒト（人）

職人さん、農家さん、地域を盛り上げる若者や地域おこし協力隊

モノ（資源）

高原野菜、清流米、久万材、四国カルスト、道の駅、文化遺産、そして休耕田や廃校といった未利用の資源



久万高原町
未来づくりワークショップ

産業編

仕事の不安を解消し、誇りを持って働ける町を目指すため、それぞれの産業の課題と解決策を話しあいました。

農業

担い手不足や耕作放棄地が課題⇒選果場などの設備を整え、「稼げる農業」へ

林業

高齢化や採算の低下が課題⇒久万材のブランド化を進める「林業商社」のような仕組みを作り、「もうかる林業」の復活

商工業

地域経済の停滞が課題⇒町内の困りごと（修理や手伝いなど）を町内のプロに頼める仕組みを作り、「できる人がつながる町」

観光

資源はあっても滞在が短いことが課題⇒交通や食を整え、一度きりではなく何度も関わりたくなる「久万高原ファン」を増やす

久万高原町
未来づくりワークショップ

子育て支援者編

令和6年の赤ちゃんはわずか10人。久万高原町で子どもが減り続ける要因やこれからできることを、支援者目線で話しあいました。

なぜ減った？

進学や仕事への不安、医療の心配などの本音が語られました。

これからの工夫

オンラインでのお医者さん相談、学校跡地の活用、地域みんなで子どもを見守る「あたたかい風土」をもう一度取り戻します。



久万高原町
未来づくりワークショップ

若者(上浮穴高校)編

上浮穴高校の生徒たちが、10年後のまちの姿について真剣に考えました。

にぎやかさ

「若者が増え、10年後もにぎやかな町であってほしい」

便利さ

「本屋やショッピングモール、カフェがほしい」「バスの便を増やして松山と行き来しやすくしてほしい」

自然

「今のきれいな夜空や景色をずっと残したい」



6 基本構想

＜目指す将来像＞

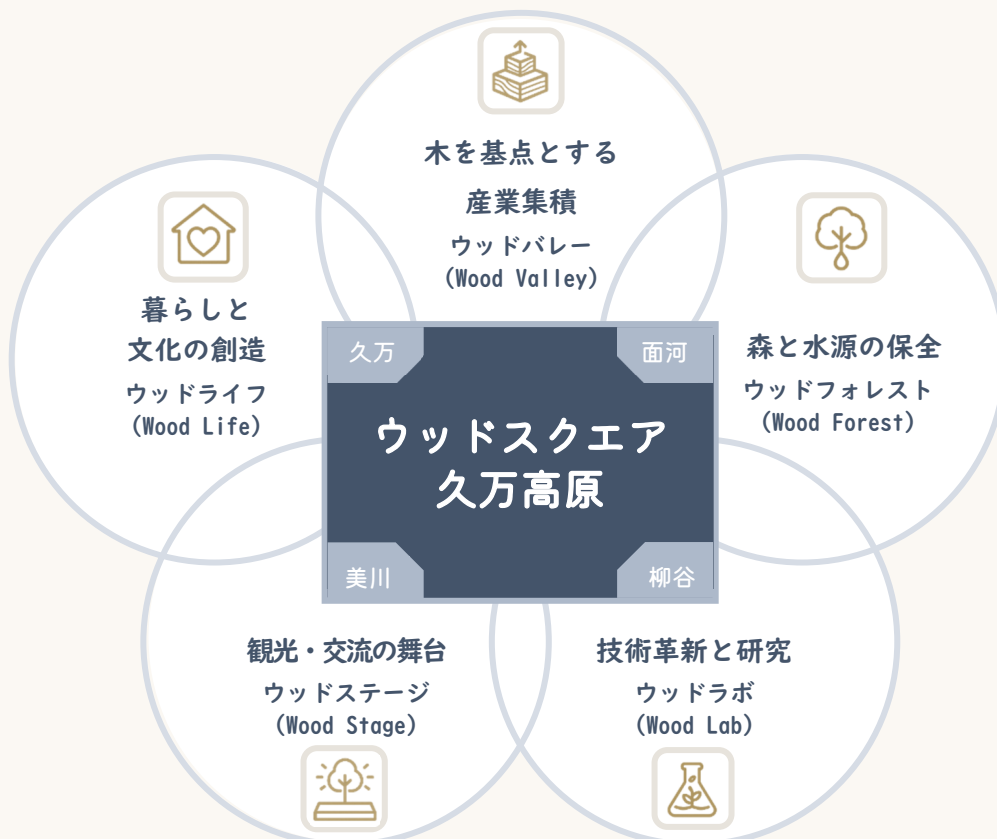


久万高原町は、久万町・面河村・美川村・柳谷村という、それぞれ異なる歴史と暮らしをもつ4つの地域が一つになって生まれた町です。町域が広く、これまで旧町村単位での取組が重ねられてきましたが、さまざまな価値観や課題が交錯する時代だからこそ、私たちは、「久万高原町」として何を軸に、何を残していくのかを、改めて問い直す必要があります。

久万高原町が選んだ軸は、「木（ウッド）」です。これは、森とともに生き、木を使い、育て、次の世代へ手渡してきたこのまちの営みそのものです。

「ウッドスクエア久万高原」は、旧町村という単位を超え、5つのウッド〇〇を土台に、一つのスクエア（久万高原）として歩いていくことを目指します。

◆ウッドスクエア久万高原の概念



※5つのウッド〇〇は、今後取組や事業名レベルで活用していきます。

＜5つの大樹（たいじゅ）の物語＞

「ウッドスクエア久万高原」は、森と人がつくる恵みの循環（エコシステム）です。その循環を支え未来へとつないでいくのが、「5つの大樹」の物語です。一本一本の大樹には、それぞれの根があり、枝があり、育てる人の思いがあります。

本計画では、それらが編み合わさり、久万高原という森を育てていく物語を描きます。



この「5つの大樹」が根を張り、幹を伸ばし、枝を広げ、互いに支えあうことで、久万高原という森は息づいており、その重なりとつながりの中にこそ、「恵みの環（わ）」の姿があります。

まちづくり体制の基礎をつくる

人と人、部署と部署をつなぐ土台は、森の根のように見えないところでまちを支えます。行政の仕組みやDX、広報・広聴は、信頼の根っこを張り巡らせ、どんな風にも倒れない町を育てます。

地域のかで糧と誇りをつくり出す

林業や農業、商工や観光は、この町を潤す実りの枝葉。森の恵みを生かし、働く人の誇りと暮らしの糧を生み出し続けることで、地域経済は大きく枝を広げていきます。林業は、町を守る根幹であると同時に、繁栄の果実を実らせる二重の顔を持っています。



人生のページに そっと寄り添う

人生にはさまざまな季節があり、医療や福祉、子育てや高齢者支援は、一人ひとりのページに寄り添う安心と支えあいのしおりとなります。誰もが自分らしく生きられることが、町の物語を豊かにしていきます。

暮らしを守り、有事に備える

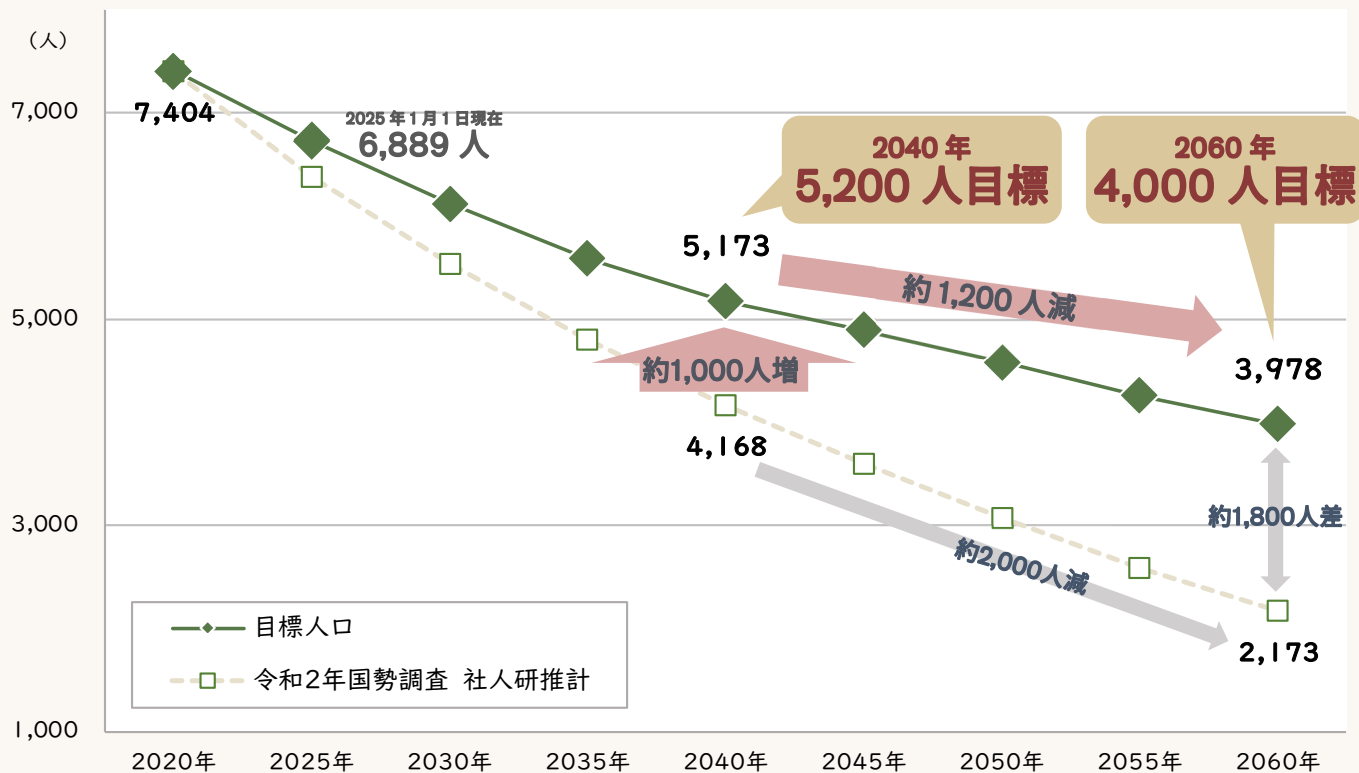
災害や危機に揺らぐことのない町であるために、環境保全や交通、防災の仕組みをしっかりと構えることが必要です。森の中で風雪に耐える大木のように、町全体を包み込む強さとしなやかさを備えます。

まちを未来につなぐ人を育てる

学校教育や生涯学習、文化や人権への取組は、未来を担う人を育てる種まきです。学びを重ね、芽吹いた若木がやがて森となり、次の世代に受け継がれていきます。

◀久万高原町の目標人口▶

2060年の総人口
4,000人



2040年 5,200人

社人研推計値(約4,168人)から
約1,000人増加

人を呼び込む (=人口増)

2060年 4,000人

社人研推計値(約2,000人)の減少幅を
1,200人に抑制

暮らしを守る (=人口減の抑制)

このまま何もしないと…

- ① 支える力が尽きる(医療・福祉の限界)
- ② 子どもがいなくなる(学校・地域の消滅)
- ③ まちの経済が回らなくなる(働く人の消失)

でも、今動けば…

- ① 支える力が戻る(安心が循環するまちへ)
- ② 暮らしが守られる(減っても続く地域へ)
- ③ 産業が動き続ける(受け継がれる仕事と誇り)

森を守り、人を育て、誇りをつないできたこの町を未来に残せるかどうかは、
いまを生きる私たちに託されています。

「ウッドスクエア久万高原」この言葉を合言葉に、静かに、しかし確かな一歩を踏み出しましょう。

7 基本計画



まちづくり体制の基礎をつくる

人と人、部署と部署をつなぐ土台は、森の根のように見えないところでまちを支えます。行政の仕組みやDX、広報・広聴は、信頼の根っこを張り巡らせ、どんな風にも倒れない町を育てます。

- 1 行財政運営
- 2 広域行政
- 3 DX
- 4 広報・広聴
- 5 コミュニティ



施策内容（抜粋）

広報・広聴

ワークショップやつどいの拠点を生かし、より幅広い世代や立場の声を聴く場を設けます。偏りのない参加を促し、多様な視点をまちづくりに反映させます。

【久万高原町未来づくりワークショップ】

子どもから大人まで幅広い世代が参加する久万高原町未来づくりワークショップは、「この町にどんな未来を残したいか」を語り合う場として毎年度継続的に開催します。

コミュニティ

行政の支援は補助事業や広報にとどまらず、住民が気軽に参加できる仕組みづくりへと広がります。固定化を防ぎ、多様な主体が関わることで活動の質と広がりを高めます。あわせて、健康・生きがい・就労などを包括的に支援するCCRC（生涯活躍のまち）の考え方を取り入れ、世代を超えて地域に関わり続けられる仕組みづくりを進めます。



地域の力で糧と誇りをつくり出す

林業や農業、商工や観光は、この町を潤す実りの枝葉。森の恵みを生かし、働く人の誇りと暮らしの糧を生み出し続けることで、地域経済は大きく枝を広げていきます。林業は、町を守る根幹であると同時に、繁栄の果実を実らせる二重の顔を持っています。

- 1 農業振興
- 2 農業基盤整備
- 3 林業
- 4 商工
- 5 観光



施策内容（抜粋）

農業振興	清流米や夏秋野菜など既存ブランドの魅力を磨き、販路拡大やPRを積極的に進めます。さらに気象条件を生かした高収益作物の導入や新しいブランド創出に挑戦し、久万高原ならではの農業の可能性を広げます。
農業基盤整備	地域計画を道しるべとして、各地域の課題を共有しながら農地の集約化と担い手の確保を進めます。認定農業者等には農地中間管理事業の活用を支援し、地域農業を持続的に維持できる体制を整えます。
林業	原木生産から素材供給、製品化までのサプライチェーンを整備し、「ウッドバレー久万高原」として全国に発信できる基盤をつくります。
商工	起業や事業承継に活用できる補助事業を継続し、若い世代や移住者の挑戦を応援します。6次産業化の推進（森林、農産物、ジビエ等）や、高校生から出されたアイデアや発想も積極的に取り入れ、「やってみたい」が実際の「しごと」につながる環境をつくります。
観光	日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に基づく計画を策定し、社会、経済、文化、環境の4側面でバランスの取れた観光を目指します。地域一帯で持続可能な取組を進め、観光による好循環を形にします。



人生のページにそっと寄り添う

人生にはさまざまな季節があり、医療や福祉、子育てや高齢者支援は、一人ひとりのページに寄り添う安心と支えあいのしおりとなります。誰もが自分らしく生きられることが、町の物語を豊かにしていきます。

- 1 地域医療
- 2 地域福祉
- 3 子育て支援
- 4 高齢者支援
- 5 障がい者支援
- 6 健康づくり



施策内容（抜粋）

地域医療	拠点医療機関である町立病院地域連携室を中心に、町内の医療機関の機能分化を推進し、持続可能なプライマリ体制を構築します。また、町内外の医療機関とのネットワークを強化し、松山の小児及び高度医療機関との連携を強化します。
子育て支援	妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない伴走型相談支援を実施し、母子の健康や育児不安の軽減を図ります。
高齢者支援	フレイル予防やロコモ対策を推進し、サロン活動や体操を通じて高齢者の健康寿命の延伸を図ります。あわせて、KDB システム等を活用し、早期にリスクを把握して水際の支援につなげます。



まちを未来につなぐ人を育てる

学校教育や生涯学習、文化や人権への取組は、未来を担う人を育てる種まきです。学びを重ね、芽吹いた若木がやがて森となり、次の世代に受け継がれていきます。

- 1 学校教育
- 2 学校給食
- 3 生涯学習
- 4 スポーツ・レクリエーション
- 5 文化（財）活動
- 6 人権の尊重
- 7 男女共同参画



施策内容（抜粋）

学校教育

木のぬくもりや自然の豊かさに触れたり、地域の農家や林家、文化財に詳しい人の講義や職業体験などの「地元学」を通じて、子どもたちが自分の町を深く知り、愛着と誇りを育てます。運動会や発表会など、地域が参加する学校行事を支え、学校・家庭・地域が一体となった地域とともに育つ教育を進めます。

人口減少が進む中、学校等の在り方の検討を行い、小規模校として良さを生かしつつ、将来を見据えた確かな学力を養うことを目的に、英語教育に特化した「英語教育教科モデル校」を指定し、「英語特化の学びの環境」を段階的に整備推進していきます。

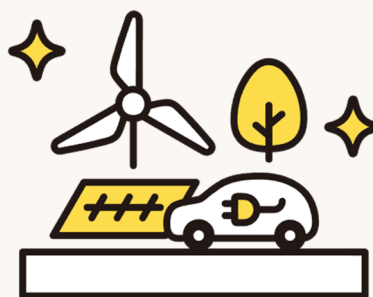
「小さな松下村塾（久万高原版 STEAM 塾）」として、久万高原町のミュージアムや大学等と連携し、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Art）、数学（Mathematics）の分野を統合的に学ぶ STEAM 教育を推進します。



暮らしを守り、有事に備える

災害や危機に揺らぐことのない町であるために、環境保全や交通、防災の仕組みをしっかりと構えることが必要です。森の中で風雪に耐える大木のように、町全体を包み込む強さとしなやかさを備えます。

- 1 環境美化・保全
- 2 再生可能エネルギー
- 3 移住・定住・関係人口増進
- 4 公共交通・地域交通
- 5 道路
- 6 生活環境
- 7 上下水道
- 8 土地利用・住宅・公園
- 9 防災・消防・救急
- 10 交通安全・防犯



施策内容（抜粋）

再生可能 エネルギー

国や県の補助制度、民間企業の資金を活用し、水力、木質バイオマス、風力など多様な再生可能エネルギー設備を計画的に導入します。町内でつくったエネルギーを町内で消費する仕組みを整え、エネルギー代金の域外流出を防ぎ、地域経済の循環を促進します。

「伐って、使って、植えて、育てる」の循環を基本に、森林資源の計画的な利用と再生を進めます。CO₂吸収源としての機能を維持しつつ、林業の成長産業化を図り、雇用や地域収益を支える柱とします。



第3次久万高原町総合計画 【概要版】

発行 愛媛県久万高原町

発行年月 令和8年3月

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万2 | 2番地

TEL: 0892-21-1111 (代表) FAX: 0892-21-2860